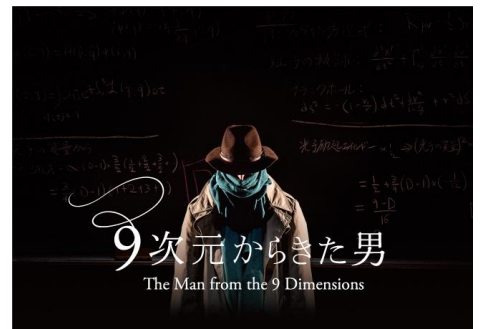


ドームシアター新規コンテンツ『9次元からきた男』 監修 大栗博司氏×監督 清水崇氏 レクチャー付きプレミア先行試写会のお知らせ

にっぽんかがくみらいかん

日本科学未来館(略称:未来館 館長:毛利 衛)は、2016年に開館15周年を迎えるにあたり、現在、常設展の大規模なリニューアルと、ドームシアターの新規コンテンツ『9次元からきた男』の制作を進めています。

『9次元からきた男』は、物理学の究極の目標である「万物の理論」をテーマにした、世界初の3Dドーム映像作品です。演出を手がけるのは、『呪怨』や『魔女の宅急便』などで知られる映画監督の清水崇氏。難解な数式で表現される理論物理学の最前線を、エンターテインメント性あふれる実写と精緻なCG・データビジュアルアライゼーションを融合させて描く、かつてないドーム映像作品です。2016年4月20日のリニューアル一般公開に先立ち、下記日程でレクチャー付きプレミア先行試写会を行うことになりましたのでお知らせいたします。



本イベントでは、『9次元からきた男』本編上映と、科学監修の大栗博司氏と、演出を担当した映画監督の清水崇氏をゲストに迎えて、トークイベントを行います。トークイベントでは、本作のテーマである「万物の理論」の最有力候補とされる仮説「超弦理論」を、大栗博司氏がやさしく解説する特別レクチャーを行います。また、大栗博司氏と清水崇氏が、作品中に登場するCGや実写映像、撮影の様子を映したメイキング画像などを見ながら制作にまつわる工夫や秘話などを語るスライドトークを行います。ぜひ貴媒体にてご紹介・ご取材いただきますようお願い申し上げます。

【概要】

- 名称:『9次元からきた男』レクチャー付きプレミア先行試写会
 - 日時:2016年1月20日(水)17:30~20:30
 - 会場:日本科学未来館 7階 未来館ホール、6階 ドームシアター
 - 上映:3Dドーム映像作品『9次元からきた男』(本編30分)
 - 登壇:大栗博司氏(理論物理学者)、清水崇氏(映画監督)
 - 内容:「本編上映」と「トークイベント」をお楽しみいただけます。※ドームシアターの定員の都合上、「本編上映」は3回に分けて行います。
 - 17:30 「本編上映」1回目
 - 18:15 「本編上映」2回目
 - 19:00 「トークイベント」
 - ・レクチャー「9次元からきた男とは何者か」講師:大栗博司氏
 - ・大栗博司氏と清水崇氏によるスライドトーク
 - 20:30 「本編上映」3回目
 - 定員:300名 ■参加費:無料
 - 申し込み方法:未来館WEB (<http://www.miraikanjst.go.jp/>)からお申し込みください。先着順、定員になり次第締め切り。
 - イベント当日の取材をご希望の方は、下記広報普及担当までお問合せください。
- ※本件に関する画像は下記ホームページよりダウンロードしてご利用いただけます。

URL: <http://www.miraikanjst.go.jp/press/>

一般からのお問い合わせ先	本件に関するお問い合わせ先
日本科学未来館 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150 URL http://www.miraikanjst.go.jp/	日本科学未来館 展示企画開発課 広報普及担当 Email: press@miraikanjst.go.jp TEL:03-3570-9192 FAX:03-3570-9150

3D ドーム映像作品『9 次元からきた男』

作品概要

ホラー映画界の第一人者、清水崇監督が挑む、科学映像の新境地！
理論物理学者が見ている究極の景色を、最新の科学データと仮説をもとに映像化

本作は、物理学の究極の目標である「万物の理論」をテーマにした世界初の3Dドーム映像作品です。近年、素粒子の研究ではヒッグス粒子が発見され、宇宙にはダークマターやダークエネルギーが満ちていることがわかるなど、自然界の法則の解明が進んでいます。しかし、素粒子のミクロの世界と、宇宙のマクロの世界をあらわす二つの理論は矛盾しており、理論物理学者たちはそれらを統一する「万物の理論」を見つけようとしています。その最も有力な仮説である「超弦理論」が提示する、驚くべき世界とは？——本来、数式でしかたどりつけない理論物理学の最前線が、清水崇監督による体感的な演出によって、めくるめくトラウマ体験の連続となってドームいっぱいに広がります。さらに、ノーベル賞受賞で話題の素粒子・ニュートリノやヒッグスを芸術的に可視化したCG、12億個という膨大なパーティクル数で描く精緻な宇宙の歴史など、最新の研究成果とデータに基づくビジュアルにも触れられる作品です。

ストーリー

「世界のすべては“ひも”で出来ている？ 謎の男が誘い出す、この世の隠れた次元」

とあるカフェの中に紛れ込んでいる、何かが違う男。その名はT.o.E.(トエ)。男は科学者たちに追われている。あと一步で捕まりそうになったそのとき、男はおもむろに姿を変えた。そして、含みのある問いかけと共に私たちを不可思議な旅へと誘う。とてつもなく小さなミクロの空間からマクロのスケール、そして現在からはるか昔、宇宙誕生の瞬間まで、変幻自在に時空を移動してゆく男。導かれるままについて行ったその先には、私たちの常識を覆すような情景が広がっていた…。T.o.E.とはいったい何者なのか？科学者たちは、T.o.E.をつかまえることができるのか——？

●監修:大栗博司

カリフォルニア工科大学 教授・理論物理学研究所 所長／東京大学 カブリ数物連携宇宙研究機構 主任研究員。京都大学卒業、東京大学理学博士(素粒子論専攻)。超弦理論の研究に対し受賞多数。第一線の研究者であると同時に、理論物理学の魅力を一般向けに伝えるユニークな解説手法にはファンが多く、著書「重力とは何か」(幻冬舎)は15万部を超えるベストセラーに。これまで出版された解説書の累計発行部数は25万部を超える。「大栗先生の超弦理論入門 -九次元世界にあった究極の理論」(講談社ブルーバックス)で講談社科学出版賞を受賞。



●監督:清水崇

大学で演劇を専攻し、脚本家・石堂淑朗氏に師事。小道具、助監督を経て、3分間の自作映像を機に黒沢清・高橋洋監督の推薦を受け、監督デビュー。ホラー映画『呪怨』がヒット。サム・ライミ監督プロデュースのもと、USリメイク版でハリウッド・デビュー、全米ナンバー1を記録。『戦慄迷宮3D』、『ラビット・ホラー3D』など、3D映画も多く手がけ、実験精神あふれる演出で観客を魅了し続けている。シャイカー所属。



『9 次元からきた男』

(2016年/30分/3D/4Kドームマスター/7.1ch サラウンド)

監修:大栗博司 監督:清水崇

ビジュアル・ディレクター:山本信一

出演:ジェームス サザーランド、ヨシダ朝、橘ろーぞ、岡安旅人

声の出演:小山力也

脚本:井内雅倫 撮影:福本淳 照明:市川徳充 編集:金山慶成 音楽:石田多朗

データ提供:The Illustris Collaboration(宇宙シミュレーション)、CERN[欧州原子核研究機構](加速器データ)

制作・CG/VFX:オムニバス・ジャパン

企画・製作・著作:日本科学未来館